

事業名	企画展開催事業	評価実施者	所 属	美術自然史館
		職・氏名	副館長 森 昌之	

主要事業の概要	開始年度	根拠法令等 博物館法、文化芸術振興基本法、科学技術基本法ほか					特定財源			
	実施方法	■ 直接 □ 委託 □ 補助 □ 負担金 □ その他〔 〕								
	目 的	地域固有の課題に応える博物館として、創業60周年を迎えた北門信用金庫が所蔵する美術コレクションの中から、北海道美術史を形作る作品の数々を紹介する、北門信用金庫コレクションによる「北海道美術の潮流展」、自然史の収蔵資料を活用して、太古から地球のたどった道のりを知り、人と地球がどのように関わっていくべきかを、子どもたちをはじめ一般市民へ発信する「MESSAGE-太古からの警告展」を開催することで、ふるさとの魅力を再発見し、博物館の活性化を図る。								
	事業内容	北門信用金庫コレクションによる「北海道美術の潮流展」は、北門信用金庫の全面的な協力により、所蔵するコレクションの中から岩橋英遠、片岡珠子らの作品44点ほか歴代のカレンダーを紹介(3,887人)。また、講演会やギャラリートーク、ロビーコンサート、芸術鑑賞バスツアー等(参加者のべ481人)の関連事業を開催。「MESSAGE-太古からの警告展」は、自然史の資料を活用した展示(3,057人)と、北海道化石会の協力による講演会、化石クリーニングのほか、ナイトミュージアムツアー等(参加者のべ366人)の関連事業を開催し								
事業コスト	区 分	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	特 記 事 項			
	事業費(A)			2,390	3,351	1,239	特定財源 北門信金負担金 2,321千円、いきいきふるさと推進事業助成金 650千円、入場料 279千円			
	うち一般財源			268	101					
	人件費(B)			40,256	37,871	38,398				
	総コスト(A)+(B)	0	0	42,646	41,222	39,637	※単位:千円			
実績と成果	区 分		単位	H17	H18	H19	H20	H21	左記以外の20年度の実績・成果	
	事業の実績 (アウトプット)	1	来館者・参加者数(人)							※H21 ①鮫島惇一郎・植物画展「北ぐにの花暦」 ②北海道版画協会創立50周年記念「北の大地の創造者たち」展 H20 ①化石展「MESSAGE-太古からの警告展」 ②北門信用金庫コレクションによる「北海道美術の潮流展」 H19 ①「りんごの木への想い〜木万寿三展」 H18 ①美術自然史館開館20周年記念「岩橋英遠とふるさと展」 H17 ①確井廣重・植物画の世界展
		2	展覧会①	2,878	6,190	1,448	3,057	1,780		
		3	関連事業①		332	211	366	142		
	事業の成果 (アウトカム)	1	展覧会②				3,887	1,563		
		2	関連事業②				481	455		
		3								

評価項目	点数	判 定 及 び 説 明 ・ 考 察									
1 適応性 有効性	10	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。 ■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1									
		②事業の目的に照らして効果的な手法か。 ■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1									
		芸術文化は、人々に精神的な豊かさや感動を与えるとともに、コミュニケーションを活発化し、生きる勇氣と喜びをもたらす普遍的な力を持っている。アンケート結果を見ても身近な場所で質の高い芸術に触れたいという市民ニーズは高く、芸術活動と創造活動の拠点として、地域の文化資源を活用した特色のある展覧会を継続して開催することは、市民が心の豊かさを実感するとともに、ふるさとの魅力を再発見する有効な手法と考える。									
2 目標 達成度	9	③目標の水準は適切か。 ■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1									
		④計画通りに目標を達成できたか。 □ 5 ■ 4 □ 3 □ 2 □ 1									
		地域ゆかりの優れた作品を紹介する展覧会、化石を通じて環境について考える展覧会を開催したことで、多くの市民が、心の豊かさや地球と人との関わり、自然環境の大切さを感じる機会となった。また、二つの展覧会に市内外から約7千人の来場、関連事業に約850人の参加があり、質の高さに驚きと関心の声が多く聞かれるなど好評を博し、博物館の活性化と滝川市の魅力アップに貢献した。なお、展覧会への小・中学生の来場が、北門信金コレクション展489人(12.6%)、MESSAGE展1,422人(46.5%)であり、学校との連携など子どもたちを集客する工夫が必要だった。									
3 経済性	5	⑤コストは縮減しているか。 ■ 5 □ 4 □ 3 □ 2 □ 1									
		補助金を有効に活用するなど特定財源の確保に努め、効率的かつ効果的な企画展の組み立てを行った。									
総合評価	合計	24	ランク (A~E)	上記評価を踏まえた事業の課題	地域固有の課題に応える博物館として、多くの市民に心の豊かさを感じてもらい、ふるさとに誇りを持ってもらえる魅力ある企画展を開催する必要がある。また、開催にあたっては、集客や事業の広がりを持たせるためにも、企業・団体・学校等との連携、他館とのネットワークを深めることが重要である。 ■ 拡充 □ 縮小・統廃合 ■ 質的向上 □ スピードアップ □ 検証 □ 現状維持						
	100点換算	96									
		/100									

【評価点数】

5 : 十分できている 4 : できている 3 : ほぼできている 2 : あまりできていない 1 : できていない

【総合評価ランク】

A : 86点以上 優れた取組が多く、十分に成果が上がっている
 B : 71~85点 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
 C : 56~70点 一定の成果は上がっているが課題もあり、更なる取組によって上位を目指す必要がある
 D : 41~55点 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多く、更なる改善が必要である
 E : 40点以下 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要である

◎外部評価委員の評価・意見等

外部計画委員の評価意見等										点検・評価に関するコメント													
評価項目		点数	判 定																				
1	適応性 有効性	10	①	■	5	□	4	□	3	□	2	□	1	・補助金を有効活用するなど、予算の範囲でよい取り組みを行っている。 ・交通が発達し、札幌をはじめ大都市に気軽に行くことができる時代、このような企画展を地元で開催することの難しさ、集客の苦労はよく理解する。施設を運営する中で、使命・役割を果たすため努力していることを評価する。									
			②	■	5	□	4	□	3	□	2	□	1										
2	目 標 達成度	9	③	■	5	□	4	□	3	□	2	□	1										
			④	□	5	■	4	□	3	□	2	□	1										
3	経済性	5	⑤	■	5	□	4	□	3	□	2	□	1										
		合計	24	100点		96		ランク		A													
			/25	換算		/100																	